

2級 学科試験問題

1. 試験時間 60分
2. 問題数 50題 A群(真偽法25題)及びB群(多肢択一法25題)

CBTに登録した試験問題の中から、アットランダムに1パターンを抽出しています。

■A群(真偽法)

1. 汚れは、主に人間の生活・生産活動に伴って発生する。
2. 建築物各部位や各場所の清掃は、季節や天候を考慮する必要はない。
3. 鉄筋コンクリート造では、コンクリートが酸性であることから、中の鉄筋が錆びるのを防いでいる。
4. タイルカーペットは、フリーアクセスフロアの仕上げ材として使用できる。
5. ステンレススチールは、過酷な環境条件下では錆が生じる。
6. カーペット繊維のアクリルは、弾力性に富む。
7. 水性フロアーポリッシュ・ポリマータイプの床維持剤は、天然ワックスが主成分である。
8. 酸性洗剤は、大理石や目地のセメントには使うことができない。
9. 洗剤の希釈に温水を使用すると洗浄効果が増す。

10. モップには、湿式モップと乾式モップがある。
11. 真空掃除機には、ドライ型とウェット型がある。
12. スクイジーには、床用と窓用がある。
13. 押さえ掃きとは、ほうきの穂先を押さえ気味にして掃く方法である。
14. ダストコントロール作業法は、ほこり以外の汚れまでは除去できない。
15. 油溶性のしみは、濡れたタオルに付着する。
16. 床維持剤や合成樹脂の厚い皮膜は、かさ高固着物である。
17. 日常作業では、主体作業時間に対して 30~35%くらいが余裕時間とされている。
18. ビル管理のごみ処理は、貯蔵所に運搬することで終了する。
19. 事業系廃棄物は、地方自治体が処理する責任を有する。
20. 近年、ごみの運搬には、ダストシートが使用されることが多い。
21. KY活動は個人で行うもので、話し合って共通化する必要はない。
22. 感染が発生する重要な感染経路として、接触感染、飛沫感染、空気感染の3つがある。

23. 「事務所衛生基準規則」は、清掃管理を業とする者を直接拘束するものではない。

24. 建築物環境衛生管理技術者の略称は「ビルクリーニング技能士」である。

25. 特定建築物の維持管理権原者は、建築物環境衛生管理技術者を選任することが義務づけられている。

■B群(多肢択一法)

1. カビおよび細菌の説明として、最も不適切なものはどれか。
ア カビは、栄養源と適當な温湿度環境が整えば発生する
イ 一般室内環境中では、レジオネラ属菌、結核菌、黄色ブドウ球菌等が検出される
ウ ポリオ、脳炎、黄熱病等は真菌性の病気である
エ 事務所内で流行するウイルスには、季節性・新型インフルエンザウイルス、ノロウイルスがある
2. 事務室清掃上の主な特徴として、最も不適切なものはどれか。
ア 作業はできるかぎり1人で行う
イ ごみの誤廃棄対策を講じる
ウ 必要時以外は私物には触れない
エ 電気配線を使用する場合、事前に確認の上、使用する
3. 建築物の構造材料による分類の短所として、最も不適切なものはどれか。
ア 木造は、燃えやすく、材料が不均質で傷(節など)がある
イ 鉄骨造は、不燃性ではあるが、鉄骨そのものとしては耐火性がない
ウ 鉄筋コンクリート造は、コンクリートの重量が強さに比較して大きく、施工に時間を要す
エ 補強コンクリートブロック造は、耐久性が低く、大規模な建築物には適さない
4. 床材に使われる花崗岩の仕上げとして、最も適切なものはどれか。
ア バーナー仕上げ
イ ヘアライン仕上げ
ウ エッティング仕上げ
エ ダル仕上げ
5. 壁仕上げの方法(工法)として、最も不適切なものはどれか。
ア 石材・タイル工事で仕上げる
イ グリッパー工法で仕上げる
ウ 塗装工事で仕上げる
エ クロス・シート・フィルムを張って仕上げる
6. 機械織りのカーペットとして、最も適切なものはどれか。
ア タフテッドカーペット
イ ウィルトンカーペット
ウ タイルカーペット
エ ニードルパンチカーペット

7. 床維持剤を塗布した場合の効果として、最も不適切なものはどれか。

- ア 汚れの付着を防ぐ
- イ 汚れの除去を容易にする
- ウ 床材を保護する
- エ 水で濡れてもすべらない

8. 現在のビルクリーニングで広く用いられている床維持剤として、最も適切なものはどれか。

- ア フロアーオイル
- イ 水性フロアーポリッシュ・ポリマータイプ
- ウ 水性フロアーポリッシュ・ワックスタイプ
- エ フロアーシーラー

9. 床維持剤の記述として、最も不適切なものはどれか。

- ア フロアーポリッシュは床の外観をよくすることを第一の目的として用いる
- イ 床維持剤の塗布は予防清掃の有効な手段である
- ウ 現在の床維持剤の主流は水性フロアーポリッシュ・ポリマータイプである
- エ 油性フロアーポリッシュは化学系床材に用いるのに適している

10. 自在ぼうきに関する記述として、最も適切なものはどれか。

- ア 家具などのほこりを払うのに適している
- イ 粗いごみを掃くのに適している
- ウ カーペットのごみ掃き用として見直されている
- エ 隅々をよく掃くことができ、ほこりをはね上げることが少ない

11. 真空掃除機の故障と原因の組み合わせとして、最も適切なものはどれか。

- ア 通電しない = 軸受けの摩耗
- イ ヒューズが切れる = ごみが容器内に詰まっている
- ウ 漏電する = モーターの絶縁不良
- エ 異常音がする = プラグ、スイッチの接触不良

12. ビルクリーニングの五原則として、最も不適切なものはどれか。

- ア 作業計画の知識
- イ 建材の知識
- ウ 保護膜の知識
- エ 作業方法の知識

13. 繊維系床材の日常清掃として、最も不適切なものはどれか。

- ア しみ取り作業
- イ カーペットスイーパーによる除塵作業
- ウ 真空掃除機による除塵作業
- エ ダストモップによる除塵作業

14. 建築物の場所と汚染レベルの組み合わせとして、最も不適切なものはどれか。

- ア 玄関 – 極重汚染エリア
- イ 事務所 – 中汚染エリア
- ウ エレベータ – 軽汚染エリア
- エ 廊下 – 重汚染エリア

15. カーペットの洗浄方式の組み合わせとして、最も不適切なものはどれか。

- ア スチーム洗浄方式 – 高温、高圧
- イ ドライフォーム方式 – 後退作業
- ウ エクストラクション方式 – 多量の水分噴射
- エ パウダー方式 – 真空掃除機

16. 建築物の外装区域に含まれる場所として、最も適切なものはどれか。

- ア 犬走り
- イ 受変電室
- ウ 外周の通路
- エ 外面の壁面

17. 標準作業時間のうち、余裕時間に含まれないものはどれか。

- ア 教育時間
- イ 付帯作業時間
- ウ 付随時間
- エ 準備作業時間

18. ごみ処理に関する留意事項として、最も不適切なものはどれか。

- ア 吸いがら収集缶は金属製のものを使用する
- イ 収集作業はビルが稼働していないときに行う
- ウ ごみ容器は常に洗浄する
- エ ごみ袋は抱えて運搬する

19. ビルごみの中間処理の目的として、最も不適切なものはどれか。

- ア ごみの集中化
- イ ごみの減量化
- ウ ごみの安定化
- エ ごみ処分の効率化

20. 脚立の使用条件を満たしていないものはどれか。

- ア 丈夫な構造であること
- イ 脚と水平面との角度は80度以下であること
- ウ 開き止め金具がついていること
- エ 踏み面は適切な面積を有していること

21. 衛生的手洗いの方法として、最も不適切なものはどれか。

- ア 十分に時間をかければ、石けんと流水による手洗いでほとんどの通過菌を除去できる
- イ 微生物汚染が考えられる場合は、消毒薬を用いて手指衛生を行う
- ウ 速乾性擦式手指消毒薬によるラビング法は、簡便に消毒できる
- エ 目に見える汚れがある場合には、まず速乾性擦式手指消毒薬を使用する

22. トイレ清掃時の注意点として、最も適切なものはどれか。

- ア 保護手袋は必ず着用する
- イ 使用洗剤は手にやさしい弱アルカリ性洗剤を使用する
- ウ 作業後は流水のみで手洗いを行う
- エ 作業後、うがいだけをしっかり行う

23. 特定建築物として、最も不適切なものはどれか。

- ア 延べ面積2,300 m²の興行場
- イ 延べ面積3,500 m²の店舗
- ウ 延べ面積4,500 m²の美術館
- エ 延べ面積6,000 m²のホテル

24. 「建築物における衛生的環境の確保に関する法律」の事業登録の有効期間について、最も適切なものはどれか。

- ア 3年
- イ 5年
- ウ 6年
- エ 8年

25. 労働安全衛生規則において、高所で作業を行う場合に作業床の設置を義務付けている高さはどれか。

- ア 0.5m
- イ 1m
- ウ 1.5m
- エ 2m

2025 年度 ビルクリーニング技能検定

2 級 学科試験

< 正解 >

| A群 真偽法 | |
|--------|----|
| 設問 | 解答 |
| 1 | 正 |
| 2 | 誤 |
| 3 | 誤 |
| 4 | 正 |
| 5 | 正 |
| 6 | 誤 |
| 7 | 誤 |
| 8 | 正 |
| 9 | 正 |
| 10 | 正 |
| 11 | 正 |
| 12 | 正 |
| 13 | 正 |
| 14 | 正 |
| 15 | 誤 |
| 16 | 正 |
| 17 | 誤 |
| 18 | 誤 |
| 19 | 誤 |
| 20 | 誤 |
| 21 | 誤 |
| 22 | 正 |
| 23 | 正 |
| 24 | 誤 |
| 25 | 正 |

| B群 多肢択一法 | |
|----------|----|
| 設問 | 解答 |
| 1 | ウ |
| 2 | ア |
| 3 | 工 |
| 4 | ア |
| 5 | イ |
| 6 | イ |
| 7 | 工 |
| 8 | イ |
| 9 | 工 |
| 10 | 工 |
| 11 | ウ |
| 12 | ア |
| 13 | 工 |
| 14 | ウ |
| 15 | イ |
| 16 | 工 |
| 17 | ア |
| 18 | 工 |
| 19 | ア |
| 20 | イ |
| 21 | 工 |
| 22 | ア |
| 23 | ア |
| 24 | ウ |
| 25 | 工 |